

平成26年度消防研究センターの一般公開

消防研究センター

発明の日（4月18日）を含む科学技術週間に合わせて、4月18日（金）に一般公開を実施しました。今年度も、隣接する消防大学校、日本消防検定協会及び一般財団法人消防科学総合センターと共同で開催し、いわゆる三鷹キャンパスをあげての一般公開となりました。

今年度の一般公開では、日頃行っている研究開発の紹介や毎日の防火安全につながる体験コーナーなど全23項目にわたる展示を行い、うち9項目については実演を行い、昨年度よりも約10%増の550人の来訪者を迎えることができました。来訪者の内訳は、消防防災関連企業の会社員（27%）や消防職員（14%）などの消防関係が多く来場しましたが、消防防災関連企業を除く一般の会社員（40%）や学生など幅広くご参加いただきました。

消防研究センターでは、平成23年3月11日の東日本大震災の課題を踏まえた研究開発に取り組んでいます。

それらのうち、太陽電池モジュール関連火災における消防活動時の危険性についての紹介（写真1）や、ガレキや海水で立ち入りが困難な津波被害現場での消火・人命救助用消防車両（小型水陸両用車）（写真2）について、実物の展示や実演を行いました。

大規模火災においては、火災旋風と呼ばれる猛烈な風を持つ竜巻状の空気の渦が発生して大きな被害をもたらすことがあることから、火災風下に発生する火災旋風を可視化する実演（写真3）を行いました。さらに、液体燃料の火災危険性を調べるため、軽油を燃料として用いて、直径1mの容器で燃焼実験（写真4）を行いました。

消防研究センターは、今後も国民の安全を守る身近な研究機関として、また、消防防災を専門に研究する唯一の国立研究機関として、より一層、消防防災科学技術の向上に努めてまいります。

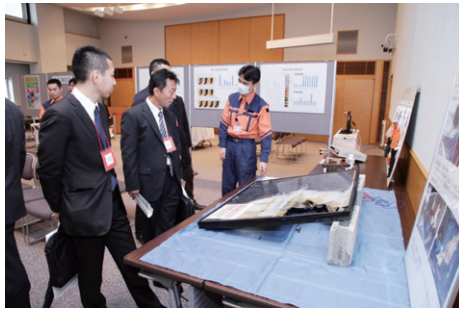


写真1 太陽電池モジュールの消火活動における危険性の紹介



写真2 津波被害現場用の消防車両等の実演



写真3 火災旋風の可視化実演



写真4 軽油の燃焼性状実験

問い合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画室
TEL: 0422-44-8331（代表）